

入シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ノ證紙ヲ收得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

前三項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時財産調査令

右謹テ上奏シ恭シク

聖裁ヲ仰キ併セテ樞密院ノ議ニ付セラレムコトヲ請フ

昭和二十一年二月十四日

内閣總理大臣男爵幣原喜重郎

ムルモノ

- 三 手形又ハ小切手ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ
 - 四 投資信託ノ受益權ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ
 - 五 前各號ニ掲グルモノノ外命令ヲ以テ定ムル財産
- 前項ノ場合ニ於テ同項ニ規定スル者（其ノ者ガ法人ナルトキハ當該法人ノ代表者及支配人其ノ他ノ代理人）ガ調査時期ニ於テ本州、北海道、四國、九州及命令ヲ以テ定ムル其ノ附屬島嶼ニ住所及居^所有セザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ同項ニ規定スル者又ハ當該財産ヲ管理スル者同項ノ申告ヲ爲スベシ
- 當該有價證券其ノ他當該財産ヲ證スル書面ヲ保管スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本人ニ代リテ第一項ノ申告ヲ爲スコトヲ得

第一項及第二項ノ規定ハ調査時期前ニ於テ第一項ニ掲グル財産ヲ調査シタル者ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ付テハ準用ス

第三條 調査時期ニ於テ現ニ存スル左ニ掲グル契約ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ契約者又ハ郵便年金受取人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該契約ニ關スル事項ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

- 一 生命保險契約
- 二 金錢信託契約（投資信託契約ヲ除ク）又ハ有價證券信託契約
- 三 無盡契約
- 四 郵便年金契約

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テハ準用ス

第四條

日本銀行券預入令
昭和二十一年勅令第一〇二號
第二條ノ規定ニ依リ日本銀行券

ノ爲サレザルモノニ付テハ命令ヲ以テ其ノ效力ノ制限又ハ處分ノ制
限若ハ禁止ニ關シ必キ定ムルコトヲ得

前項ニ規定スル財産及前項ニ規定スル契約ニ基キ契約者、生命保險
金若ハ郵便年金ノ受取人又ハ信託ノ受益者ノ有スル權利ハ法律ノ定
ムル所ニ依リ之ヲ國庫ニ歸屬セシムルモノトス

第十條 第四條ノ申告ナキ場合ニ於テハ日本銀行（券預入令）及日本銀行（金融機關）

勅令第一條第一項但書若ハ第三條第一項ニ規定スル者ハ同

令第二條若ハ第三條ノ規定ニ依リ引換又ハ同令第一條第一項但書ニ

規定スル預金、貯金若ハ金錢信託ノ受入ヲ爲スコトヲ得ズ

第十一條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査ト必要アルトキハ第五條ノ

規定ニ依リ書類ノ提出ヲ爲スベキ義務アル法人又ハ第六條ノ申告ヲ

爲スベキ義務アル個人ニ質問ヲ爲シ又ハ當該事業ニ關スル帳簿書類、
財産其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十二條 大藏大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便官署、銀行其ノ他命

令ヲ以テ定ムル法人ヲシテ第二條乃至第四條、第七條及第八條ニ規

定スル事項ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ前項ノ事務ノ取扱ヲ爲ス法人ノ當該事務ニ從事ス

ル職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第十三條 行使ノ目的ヲ以テ第八條第二項ニ規定スル證紙ヲ偽造シタ

ル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

偽造ノ證紙ヲ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ偽造ノ證紙ヲ人ニ交

付シ、輸入シ若ハ移入シタル者又ハ第八條第二項ニ規定スル證紙ヲ

不正ニ使用シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十四條 第八條ニ規定スル措置ニ關スル事務ニ従事スル者同條第二

項又ハ第十二條第一項ノ規定ニ基キ發スル命令ニ違反シテ當該措置

ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲^役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第十條ノ規定ノ違反アリタル場合ニ於テハ其ノ行爲ヲ爲シ

タル者ヲ三年以下ノ懲^役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 當該官吏^{官署若シ}若ト第十二條第一項ノ規定ニ依リ同項ノ事務ノ

取扱ヲ爲ス法人當該事務ニ従事スル職員又ハ此等ノ職ニ在リタル者

其ノ事務ニ關シ知得タル秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ二年以

下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第十條ノ規定ニ依ル帳簿書類、財産其ノ他ノ物件ノ検査ヲ

拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シ

タル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條ノ規定ニ依ル稅務署長又ハ其ノ代理官ノ質問ニ對シ答辯ヲ

爲サズ又ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第五條ノ規定ニ違反シ當該書類ヲ提出セズ若ハ虚偽ノ記載

ヲ爲シタル書類ヲ提出シタルトキハ第六條ノ規定ニ違反シ申告ヲ爲

サズ若ハ虚偽ノ申告ヲ爲シタルトキハ當該法人ノ取締役、理事、清

算人若ハ此等ニ準ズル者又ハ當該個人ヲ一萬圓以下ノ過料ニ處ス